

# 私たちのデジタルトランスフォーメーション

## Foreword: Our Digital Transformation



コニカミノルタ株式会社  
常務執行役

腰塚 國博

Kunihiko KOSHIZUKA  
Senior Executive Officer  
KONICA MINOLTA, INC.

近年のICT・IoTの進化を震源として、全産業のサービス化・ビジネスモデル異変・AI浸食などの地殻変動が起きています。今後、世界規模で既存のビジネスの秩序崩壊、即ちデジタルディスラプションと呼ぶべきイノベーションが非常なスピードで展開され、ある予測では2020年までに世界のGDPの25%が新デジタル経済に代替されると言われています。

たとえ現時点で大企業であっても迫り来る変化に対して“茹で蛙”や“出遅れ”では生き残れない大競争時代が到来しています。従来のように安定を求め“持続的競争優位獲得を長期に狙える時代”は終焉を告げ、イノベーションを連続的に短期に創出し続けて、初めて競争優位を維持できる“連続的競争優位創出を狙うべき時代”に突入しているのです。

私たちはまず初めに生き残りをかけてデジタルトランスフォーメーションを急ぐ必然性、そしてデジタルディスラプションと呼ぶべきイノベーションは特別なものではなく連続的かつスピーディーに創出し続けるものであることを強く認識しなくてはなりません。そして、イノベーションで最も重要なことは当然顧客価値の創出です。つまり、私たちのデジタルトランスフォーメーションとは、私たちが新しい顧客価値を次々と創出するデジタルディスラプターとなることです。B2Bを生業とする私たちとしてお客様である企業様のデジタルトランスフォーメーションに貢献し、社会課題解決及びお客様の真の価値に刺さることが目的です。

次に、私たちが技術開発の立場においてデジタルトランスフォーメーションを勝ち抜く上で重要となる“3つの技術融合”について述べたいと思います。

私たちは、長い歴史のなかで様々な事業の参入/撤退を体験してきました。創業のカメラ/フィルム事業からも撤退しました。これはまさにデジタルディスラプションだった訳です。私たちが繰り返し蘇った歴史から学んだことは、既存事業で培ったコア技術を的確に新規事業の差別化価値として翻訳することの重要性だと思えます。光学/材料/画像/微細加工といった強いコア技術を高度に融合して新しい差別化価値を創出することの重要性です。私たちの諸先輩はそれらを成し遂げて来ましたが、デジタル新機軸の時代である今もこのことは基本だと思えます。

特に近年重要な2つ目の融合は、世界のトップレベルな技術を“Open Close Architecture Policy”に基づきオープンイノベーションでメタナショナルに獲得してコア技術と融合することです。このことはグローバルメガコンペティション時代を勝ち抜くための必須要件と言っても過言ではないと思えます。モジュール化、水平分業が容易なデジタル時代にあって、フルセット自前主義で勝てる時代は終了しています。

3つ目の融合は“サイバー世界の演算機能をフィジカル世界の実ビジネスの味方として融合し、取得したデータを価値に変換し付加価値データとして活用する力”です。デジタルトランスフォーメーションを推進し、ビジネスモデルイノベーションを実現する上で重要です。

コニカミノルタらしいカッチェンエッジなフィジカル(リアル)プロダクツで、見えないモノを見える化して、先進的なICT技術で高付加価値化されたサービスドミナントなビジネスモデルにラッピングする、それが私たちの目指すKMサイバーフィジカルシステムという型です。私たちコニカミノルタがデジタルトランスフォーメーションを率先して進めることで社会に貢献していきたいと考えます。